

『紡ぐ』

2022.6.15 第43号

発行 教育相談室「あした塾」



この歴史ある穴水町を

なんとかしよう！

という強い思いを持って...

穴水町乙女崎出身で、現在、羽咋市在住の植川慶三さん
が、穴水町に対する思いを込めて使い成章しました。
「故郷を少し離れた所から眺めていると、見えてく
るものがあります。」「人口減の時代にあつて、今後
の穴水町の行末に憂慮し、歴史ある町として存続
し、発展できないものかと考えています。」「どんな構
想も、実現させるためには、地元穴水町民の『なんと
かしよう！』という強い思いが不可欠です。』とありま
した。『しんぶん『紡ぐ』第1号で、村長『紡ぐ』を

発行することになったのかを書きました。そして、現実をしっかりと見て、行政も、議会も、町民も、そ
いその立場で知恵を出し合い、それを形にしていく工夫、努力が必要だとも書きました。

2018年3月に国立社会保障・人口問題研究所が発表した試算では、2040年には穴水町が
消滅する（単独町政不可能）となっています。人口推計3,600人余です。皆さん、本当に、本気で考
え、行動していきませんか！?

トキ放鳥へ 馳 港知事に要望書提出

5月26日、能登トキランクラブは

「トキ放鳥実現」に向けて要望書を提出しました。馳知事は「全体的に受け止めて検討する」と応
えてくれました。当日は宮下源一郎会長、志村扶佐司、出村敏和副会長、滝井元之監事、高木
作之商工会会長、室崎高政副所長他が同席しました。北、中村 勲県議も同行してくれました。



ウクライナ支援

地域おこし協力隊の後藤洋子
さんが、先の駅ピアノコンサート時の
ウクライナ支援寄付金について、お知
らせがありました。寄付金は在日ウク
ライナ大使館へ送付したとのこと。寄
付金は避難民の生活支援にあ
ていられるそうです。
寄付金総額は64,265円でした。

大中正司議員、市政議会におき

大中正司議員は今年度も活動報告を発行しまし
た。残念なことに現職時では、この活動報告を出してい
るのは大中正議員一人だけです。北、議会や町への能
果を本当に生かした議会改革ができるのでしょうか？
議会の責任、議員の責任を再度確認をされ、所、所
民のための政治を推進してほしいものです。

穴水再発見の旅③

潮騒の道・しおさい林道へ 6月7日



6月7日、「穴水再発見の旅」第3弾「潮騒の道・しおさい林道」散策が実施されました。総勢11名で「どんぐりの会」代表の池上悟さんの案内で歩を進めていきました。



ゆっくりと、そして和気あいあいの楽しい散策になりました。

池上代表の植物に関する知識の豊富さに驚かされた参加者も多く、特に「どんぐりの会」の会員でもある石田綾子さんの観察眼も感じさせられるものでした。

(「スダジイ」の説明を聴く)

途中、ササヅクリにも出会い、黄色い葉の木イチョウをロクに知らない子どもたちの話を語り合う場面もありました。この散策路を整備したときとは、「おのぶん工夫をしたんだらうな〜」と思われる場所がいくつかあり、また、まさに「パワースポット」と言える地点もあり、あとの整備と外への積極的な働きかけがあれば、多くの人たちに来てもらえる素晴らしいルートになるのではないかと思います。

「穴水再発見の旅」第4弾は8月下旬に、旧能登線の廃駅めぐり(穴水限定)を予定しています。(いくつかの困難な条件もあり、8月下旬の平日になるかも知れません。後日案内します。)

(いざ「しおさい林道」へ)

「さとり」の道づくり 新中居八景、創造会議

6日夕、住吉公民館で、新中居八景創造会議による講演会が行われました。講演は「さとり」の道づくりの経緯について、当時、町教委社会教育課職員であった、本教寺住職 葛城真証さんで話されました。命、人生、人間を考へる道のことです。



(葛城真証さん)